



【市の花】はまなす



【市の木】松



【市の鳥】きじ



## 第41回国際書画展

### 林 純子さん(須賀)が 内閣総理大臣賞を受賞

国立新美術館(東京都港区)で1月23日から2月4日に開催された「第41回国際書画展」(主催=国際書画連盟)において、市内在住の林純子さん(須賀)が最高賞の内閣総理大臣賞を受賞しました。



▲内閣総理大臣賞を受賞した林純子さん



内閣総理大臣賞

800点を超える全国の応募作品の中から最高賞の栄誉に輝いた作品は、林さんが日ごろから研究している王鐸調で、連綿体(連続した書体)の条幅三行の大作です。約3カ月の制作期間をかけて、最後まで妥協せずひたすら書き込んで仕上げました。

最高賞の受賞に、「まさかこのような大きな賞を受賞できることは。指導いただいた梶山翔鶴先生をはじめ、支えてくれた書友の皆さんのおかげです」と、謙虚に喜びを語りました。



鹿嶋の魅力ある風景をハッシュタグを付けてSNSに投稿しよう!

#kashimaphoto または #鹿嶋極みの一枚を付けて皆さんが投稿した写真を、市公式SNS (Instagram、Facebook、Twitter) でシェアします!

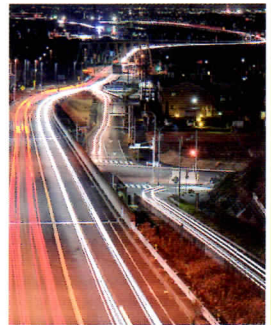
#### 【投稿方法】

気軽に投稿してみる = #kashimaphoto  
 あなたのBESTの一枚を = #鹿嶋極みの一枚

※「#鹿嶋極みの一枚」に投稿された写真は、市の刊行物に使用場合があります。

#### 【市公式SNSアカウント】

- @kashima\_city\_official
- @kashima.city
- @kashima\_city



▲「#鹿嶋極みの一枚」でInstagramに投稿された写真(投稿者 @walk9xさん)

複数回の投稿もOK!!

### 古川博士の気象コラム



古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

城山公園のサクラのつぼみが膨らみ、一段と赤味を増してきました。白いコブシも青空を背にあちこちで花をつけ始めました。垣根のそばには可憐なスイセンが揺れ、道端にはツクシが顔を出しています。

「花に三春の約あり」という言葉をご存じでしょうか。春が来ると、まるで前もって互いに約束をしていたかのように、花々が一齐に芽吹いて咲き始める自然の摂理と恵みを表したものです。「三春」は初春・仲春・晩春の総称で、旧暦の1月・2月・3月(今の季節の2月上旬から5月上旬)を指します。冬から春への道のりを、鹿嶋(城山地内のアメダス)の月平均気温(平年値)で見ると、2月5℃、3月7.9℃、4月12.7℃、5月16.7℃で、3月から4月



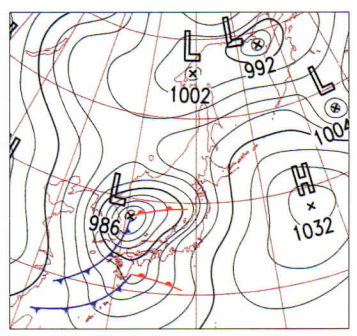
▲春の訪れを告げるコブシ(市内で昨年3月撮影)

にかけての上昇が著しいことがわかります。

また月降水量では、2月は約80ミリですが、3月、4月は一気に120ミリを越えます。この暖かさと雨こそが、「三春の約」の原動力なのです。初春の3月は特に天候が変わりやすく、穏やかな陽光も束の間、翌日は花を吹き飛ばす嵐や雨となることもあります。まだ雪も油断できません。こうした嵐を呼ぶのは低気圧です。

右上の過去の天気図を見ると、日本海に急発達した986hPaのいわゆる爆弾低気圧があります。12時間後には964hPaと台風並みに発達し、暴風のほか、強雨、高潮など各地で大荒れとなり、和歌山県友ヶ島では最大風速毎秒32.2メートル、鹿児島県天城では1時間降水量が57.5ミリを記録しました。

親鸞聖人は、こうした春の嵐を人生と桜の花に例え、「明日ありと思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものは」と詠みました。天気が変わりやすい春には嵐がつきものと、昔の人も感じていたようです。現代の私たちも、毎日を大切にしたいものですね。



▲平成24年(2012年)4月3日9:00の天気図(出典:気象庁)

【市の花】はまなす  
 【市の木】松  
 【市の鳥】きじ